Osaka University Knowledge Archive

Title	平成十九年度退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2008, 48, p. 167-172
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/7836
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

平成十九年度
退職教員略歴・主要業績

林　　正則　教授　西洋文学・
語学講座（ドイツ文学）

柏木　隆雄　教授　西洋文学・
語学講座（フランス文学）

林（はやし）　正則（まさのり）教授 略歴・主要業績

1944年８月７日　岐阜県海津郡生まれ

略　歴

1963年（昭和38年）３月　大阪府立豊中高等学校卒業
1963年（昭和38年）４月　大阪大学文学部入学
1967年（昭和42年）３月　大阪大学文学部独文学専攻卒業
1967年（昭和42年）４月　大阪大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻修士課程入学
1970年（昭和45年）４月　同上修了
1970年（昭和45年）５月　大阪大学文学部助手（独文学専攻）
1975年（昭和50年）３月　同上辞任
1975年（昭和50年）７月　DAAD（ドイツ学術奉仕団）奨学生としてドイツ連邦共和国ボン大学に留学（1976年９月帰国）
1976年（昭和51年）10月　大阪大学言語文化部講師
1981年（昭和56年）２月　大阪大学言語文化部助教授
1990年（平成２年）４月　大阪大学文学部独文学専攻助教授に配置換
1996年（平成８年）１月　大阪大学文学部教授
1999年（平成11年）４月　大阪大学大学院文学研究科教授
2003年（平成15年）４月　大阪大学評議員（2006年３月まで）

学会関係役員

阪神ドイツ文学会幹事（1988年４月～1992年３月，1994年４月～1997年３月）
日本独文学会理事（1995年５月～1999年４月）
阪神ドイツ文学会会長（2006年４月～2008年４月）
日本ゲーテ協会評議員・理事（2003年６月～現在）
日本ヘルダー学会常任理事（1994年４月～2006年３月）

主要業績

〔著　書〕

『ドイツ短篇小説の展開』［共著］クヴェレ会（昭和55年１月）
『ドイツ市民劇研究』［共著］三修社（昭和61年６月）
『異文化の交流』［共著］大阪大学出版会（平成８年11月）
『仮面と遊戯 ― フリードリッヒ・シラーの世界』［共編著］鳥影社（平成13年７月）

〔学術論文〕

「運命と犠牲 —『親和力』をめぐって」大阪大学文学会『待兼山論叢』第7号（pp.25-39.）1974.1.

「ゲーテの自然研究 — Morphologie, Farbenlehre を中心に」『神戸女子薬科大学人文研究』第5号（pp.23-36.）1978.2.

「『植物のメタモルフォーゼ』の言語表現 — ゲーテの自然科学を理解するための一つの試み」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第22巻（pp.143-158.）1980.10.

「象徴的ノヴェレとしての『五十歳の男』について」科研研究成果報告書『ドイツ短篇小説の歴史と理論』（pp.1-17.）1983.3.

「精神のモルフォロギーとしてのゲーテ『色彩論・歴史篇』」ゲーテ自然科学の集い『モルフォロギア』第8号（pp.16-29.）1986.10.

「ゲーテの自然科学とフランス革命」日本独文学会『ドイツ文学』第82号（pp.22-32.）1989.3.

「直観・悟性・言語 — 色彩論に関するゲーテとシラーの往復書簡をめぐって」大阪大学「独文学報」刊行会『独文学報』第6号（pp.1-18.）1990.10.

「イタリアの光と闇 — ゲーテ『ローマのカーニヴァル』をめぐって」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第33巻（pp.105-122.）1991.10.

「ゲーテにおける自然科学と言語 — ローマン派との接点を求めて」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第36巻（pp.73-88.）1994.10.

「『旅日記』から『イタリア紀行』へ — ゲーテ「古典主義」の生成をめぐって」大阪大学ドイツ文学会『独文学報』第11号（pp.39-58.）1995.11.

「ゲーテのパラーディオ「巡礼」— アウトノミー美学成立の一側面」大阪大学文学会『待兼山論叢』第29号（pp.23-42.）1996.12.

「風景画家としてのアーモル — ゲーテとイタリアの風景」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第39巻（pp.1-19.）1997.10.

「クラクフの途上にて — 1790年・ゲーテのシュレージエンの旅」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第42巻（pp.13-30.）2001.10.

「近代ドイツにおける空間変容と旅の記述」　科研研究成果報告書『近代ドイツにおける空間経験の変容とその言語表現』（pp.1-8.）2002.3.

「アンタイオス・ゲーテとメタモルフォーゼする「風景」— W. ブッシュの『イタリア紀行』論をめぐって」『大阪大学文学研究科紀要』第43巻（pp.73-91.）2003.3.

「牧歌か悲歌か？シラーの『素朴文学と情感文学』から見たゲーテの『アレクシスとドーラ』」大阪大学ドイツ文学会『独文学報』第20号（pp.73-92.）2004.11.

柏木　隆雄 教授 略歴・主要業績

略　歴

1944年８月10日	三重県松阪市に生まれる
1963年３月	三重県立松阪工業高校工業化学科卒業
1963年４月	住友金属工業株式会社入社（1965年３月まで）
1969年３月	大阪大学文学部（仏文学）卒業
1971年３月	大阪大学大学院文学研究科修士課程（仏文学）修了
1975年３月	同大学院文学研究科博士課程（仏文学）単位修得退学
1975年４月	神戸女学院大学文学部専任講師
1978年４月	神戸女学院大学文学部助教授
1981年10月	パリ第七大学第Ⅲ期博士課程入学
1982年６月	パリ第七大学第Ⅲ期博士学位取得
1983年４月	大阪大学文学部助教授
1991年４月	大阪大学文学部教授（仏文学講座）
1999年４月	大阪大学大学院文学研究科教授（フランス文学専門分野）
1999年４月	日本学術審議会専門委員（2000年３月まで）
1999年６月	大阪大学評議員（2001年３月まで）
1999年８月	フランス共和国文部省よりパルム・アカデミック勲章（シュヴァリエ）受章
2001年６月	日本フランス語フランス文学会副会長（2005年５月まで）
2003年６月	大学評価・学位授与機構評価専門委員（2004年３月まで）
2004年４月	大阪大学大学院文学研究科長，文学部長（2006年３月まで）
2006年６月	日本フランス語フランス文学会関西支部長（2009年５月まで）

主要業績

〔単著書〕

La Trilogie des Célibataires *d'Honoré de Balzac*, Paris, Nizet, 1983年10月

『イメージの狩人　評伝ジュール・ルナール』，臨川選書17，臨川書店，1999年４月

『謎とき「人間喜劇」』，ちくま学芸文庫，筑摩書房，2000年５月

Balzac, romancier du regard, Paris, Nizet, 2002年10月

『交差するまなざし』，朝日出版社，2008年３月

〔共著書〕

『幻想空間の東西 — フランス文学をとおしてみた泉鏡花』「妖異の語り方 — 泉鏡花とフランス文学 —」，十月社，1990年1月

『異文化の交流』「留学の効用」，大阪大学出版会，1996年10月

『バルザック — 生誕200年記念論集』「『アルベール・サヴァリュス』— 声とまなざし —」，駿河台出版社，1999年10月

『ヴィクトリア朝 — 文学・芸術・歴史 — 松村昌家教授古稀記念論集』「ディケンズとフランス」，英宝社，1999年11月

『バルザックとこだわりフランス　ちょっといい旅』「読者のみなさんへ」「バルザックと地理」，恒星出版，2003年3月

『エクリチュールの冒険 — 新編・フランス文学史』「エクリチュールの冒険 — フランス文学の醍醐味 —」「市民演劇の展開」「市民小説の系譜」「あとがき」，大阪大学出版会，2003年12月

『フランス文学小事典』，朝日出版社，2007年3月

〔論　文〕

Scènes de la vie privée の世界 —『人間喜劇』論の序章として —，『待兼山論叢』第8号，1975年2月

漱石とメリメ — 美彌子の肖像をめぐって —，作家の世界『夏目漱石』，番町書房，1977年11月

バルザック『ユルシュル・ミルゥエ』の構造と意味，『神戸女学院大学論集』第69号，1978年7月

Eugénie Grandet における lumière，『フランス語フランス文学研究』第35号，1979年10月

小説『ピエレット』の成立，『神戸女学院大学論集』第76号，1979年12月

バルザック『ラ・ラブイユーズ』考 — フロール・ブラジエの生をめぐって —，『神戸女学院大学論集』第81号，1981年10月

パリ — 1831年の文学的構図 —，大阪大学文学部共同研究センター共同研究論集第2輯「都市史をめぐる諸問題」，1984年8月

La structure et la signification des *Parisiens en province, Etudes de langue et littérature françaises,* n° 50，1987年3月

出会いの詩学 —『谷間の百合』における愛と死 —，『愛と死 — エロスのゆくえ —』，大阪創元社，1987年10月

鏡花・メリメ・ユゴー — 受容の問題 —，『文学』第57巻第9号，岩波書店，1989年9月

明治文学とフランス文学，『日本文学と外国文学 — 入門比較文学 —』，英宝社，1990年8月

『いとこベット』の深淵 — ヴァレリィ・マルネフの性,『性のポリフォニー — その実像と歴史をたずねて』, 世界思想社, 1990年10月

墓地からの光景 — ロマン主義時代の文学的トポス,『フランス・ロマン主義と現代』, 筑摩書房, 1991年3月

小説家ジュール・ジャナン,『流域』第30号, 1991年7月

Le cimetière parisien et le destin des héros romantiques — Un essai sur le topique du romantisme —, *Equinoxe,* n° 9, 1993年6月

Catherine Lescault, qui est-ce ? — *Le Chef-d'œuvre inconnu,* roman d'amour ou roman de peinture ? — (2),『待兼山論叢』第27号, 1993年12月

Le Chef-d'œuvre inconnu, conte d'amour ou conte de peinture ?, *Equinoxe,* n° 11, 1994年4月

テクストの変貌 —『知られざる傑作』を読む —,『ユリイカ』12月号, 青土社, 1994年11月

Émile Zola à l'aube de la littérature japonaise contemporaine, *GALLIA,* XXXV, 1996年3月

ジュール・ルナールの挑戦,『象徴主義の光と影』, ミネルヴァ書房, 1997年10月

フランス古典主義演劇とその理論,『芸術学フォーラム7　文芸・演劇の諸相』, 勁草書房, 1997年12月

Daumier et Balzac, *Balzac et la peinture,* Musée des beaux-arts de Tours, 1999年5月

La Poétique balzacienne sur *Facino Cane, L'Année balzacienne 1999*, 2000年12月

Cent ans d'études balzaciennes au Japon, *GALLIA,* XL, 2001年3月

L'échec de la Reine de cœur, un homme et une femme dans *Le Bal de Sceaux*, *Balzac loin de nous, près de nous,* Surugadai-shuppansha, 2001年4月

La voix et le regard dans *Albert Savarus, Equinoxe,* n° 19, 2001年5月

いとこポンスのコレクション,『バルザックを読む1』, 藤原書店, 2003年4月

ゾラ, 紅葉, 荷風 — 明治文学の間テクスト性 —,『ゾラの可能性　表象・科学・身体』, 藤原書店, 2005年6月

「無神論者のミサ」論,『シュンポシオン — 高岡幸一教授退職記念論文集』, 朝日出版社, 2006年3月

「フランス」との邂逅,『日仏交感の近代 — 文学・美術・音楽 —』, 京都大学学術出版会, 2006年5月

Démons et revenants dans les *Contes de pluie et de lune* d'Uéda Akinari, *Figures du fantastique dans les contes et nouvelles,* Publications Orientalistes de France, 2006年10月